

GPSP 世界平和パートナーシップ

Global Partnership for Sustainable Peace

GPSP「世界平和パートナーシップ」とは、人道支援における AMDA の新しい総合事業です。「開かれた相互扶助」に基づく広範かつ総合的なネットワークをベースに、和平構築、包括的生活支援、教育支援、健康増進に及ぶ4つの分野を総括していきます。AMDA の 30年間の経験を集積した構想であり、将来への指針となるものです。

GPSP 世界平和パートナーシップの意義と目的

この新しい総合事業の最も重要な目的は、AMDA の根本的な価値観 philosophy を世界に啓蒙普及することです。過去30年間の AMDA 活動の根幹は多様性の共存、即ち世界平和を実現するための「開かれた相互扶助」にあります。GPSP は、AMDA のネットワークを更に広げ、専門性を強化し、世界のもっと多くの人々にこのアムダの平和のメッセージを伝えることができると確信しています。

次に、急速に変動する世界経済に対応するためアムダの活動には将来に向けて強固な財源基盤が必要です。企業、商業銀行等に参加いただき新しい経済支援モデルを構築する必要があります。貧困層を社会の経済活動に組み込む橋渡しをするということです。これを実現するためには、経済界、特に銀行などからの協力や助言が不可欠です。GPSP のもとで、経済界の専門分野との連携を深め、より強固な財政基盤によって活動範囲を拡張していきたいと願っています。

1984年の発足以来 AMDA は、30年間にわたり経験と見識を積み上げてきました。この経験と見識は、将来の国際社会を担う若者たちに受け継がれていくべきものであります。世界中の多くの方々のご理解とご支援により AMDA は、小さく始まりましたが、国際 NGO へと成長することが出来ました。国際社会の為に、そして特に私共の支援者の方々の為にも、30年前に始まったこの AMDA の伝統を若い人たちへ伝えていくことが今日の私共に課せられ

た義務だと考えています。私達が若い時にチャンスを与えられたように、次世代の人たちにも社会のために尽くす機会を与えるべきです。GPSP の広範のネットワークを通して、次世代を担うアムダの若きパートナーたちへより良き教育とトレーニングの場を与えていきます。

昨今の自然災害はかつてない頻度とスケールで世界を脅かしています。緊急救援の方法は新たなニーズの変化に対応していかなければなりません。現在では、多くの国々で自然災害への対応策とともに国民を災害から守る手段が講じられていますが、国際 NGO にも、未だ多くの被災者に対しての救援の方法が残されており活動が求められています。被災地のニーズの一番良き理解者、支援者は現地の方々です。AMDA の緊急救援の基本は、ローカル・イニシアチブです。これからも、地域社会の能力の向上と地域のパワーの最大限の活用を目指し、GPSP は地域やそれぞれの現地で活動している団体との更なる連携を広げていきます。

GPSP のネットワーク

GPSP は、2014年から2016年の三カ年を第一段階とし AMDA の責任のもと運営していくこととなります。活動地は、原則として主にアジアになりますが、過去のアムダと同様に、緊急救援活動においては、アジアに限らずグローバルに展開していきます。第一段階終了時には、三カ年の活動を精査し、その成果を踏まえて現地化とアジア以外にも適用の可能性を考え第二次行動方針につなげます。

Global Partnership for Sustainable Peace

GPSPの事務局機能は、岡山のアムダ本部とGPSP オフィス in クアラルンプールが担うこととなります。ここ2、3年の内には、アジアの他の国々にも（主に自然災害多発国）GPSP事務所を開設します。

GPSPのネットワークは、AMDAとその連携団体、アムダ・インターナショナルと各国の支部から構成されます。2013年の春に設立されたアジア相互扶助災害医療ネットワーク、英語名 Asia

Sogo-Fujo Network for Emergency Relief 略して As-net に加盟している団体の積極的な参加も今後期待できるものと考えています。GPSPは、「開かれた相互扶助」の精神に参同する全ての人々にその門戸を広く開いています。

AMDA トラストは、アムダの大口募金者を主体に構成されます。GPSP 財政部門のアドバイザーとして奨学金及びGPSP プロジェクト最優秀賞等に関して必要な協力・助言をする機関です。

AMDA アカデミーは、GPSP の諮問機関として、プロジェクト案の評価・助言を行い、最優秀賞の選考、奨学金の認定等の役割を果たしていきます。

AMDA アカデミーは、AMDA International の各国支部の創設者で構成されます。

GPSP は世話人制度を導入致します。GPSP が提案するプロジェクトに参加を決定した団体は、それぞれ一名の世話人を出し、世話人達は協働してプロジェクトを円滑に運営できるよう努めます。更に、共通する関心事についての意見交換を通して他の分野での交流へと広げていくことを考えています。

GPSP の4分野・10 事業

1. 和平構築

GPSP 多国籍医師団

GPSP 医療と魂のプログラム

2. 包括的生活支援

小規模融資

有機農法

3. 教育支援

GPSP キッズ・プロジェクト

グローバル人材育成プログラム

GPSP 奨学金

4. 健康増進

GPSP 友好病院

GPSP 医療ミッション（高度医療導入も含む）

プライマリ・ヘルスケア（巡回診療含む）とヘルス・プロモーション

1. 和平構築

【GPSP 多国籍医師団】

GPSP 多国籍医師団の基盤は、AMDA 多国籍医師団の基本理念をそのまま適用したものであり、その目的は難民や自然災害の被災者の救援活動にあります。GPSP の緊急救援は、三つの範疇に分けられ、第一範疇の救援活動は自然災害発生国のGPSP 加盟団体だけに限られ、その団体の自由裁量で行われます。第二範疇では、自然災害発生国の近隣国のGPSP 加盟団体が救援に加わるようになります。GPSP 加盟団体の有志を挙げての支援活動を第三範疇と致します。第二範疇と第三範疇の活動では、コーディネーション・センターを設置、医師派遣希望団体はコーディネーター1名をセンターに派遣します。必要に応じて災害後の対策も講じていき、被災者の苦痛を和らげるための様々の試みを実施していきます。

アジア諸国に設置予定のGPSP 事務所は、各国の現地企業や公益団体に募金及び協力をお願いをしていきます。

【GPSP 医療と魂のプログラム】

AMDA 魂と医療のプログラム、略して ASMP

(AMDA Soul and Medicine Program)

は、ユニーク且つ効果的な方法で戦争や自然災害などで苦しむ多くの人々の身体と心に癒しを与えてきました。GPSP の下では更に多くの宗教会の指導者及び多様な文化・教育の専門家やコミュニティーのリーダーの方々に参加いただき、平和なコミュニティー再興に尽くして行きます。

2. 包括的生活支援

【小規模融資】

AMDA は、小規模融資に借り手の健康保険を加味した AMDA 独自のコンセプトを AMDA Bank Complex として実施し、バングラデッシュをはじめ他の国々で成功を収めてきました。この延長線沿いに、小規模融資銀行の設立を次のステップとして考えています。商業銀行は、その社会的信用や融資能力で、NPO・NGO が実施してきた従来の方法よりも遥かに大きく貧困層に社会的力を与えることができます。即ち、単なる貧困対策ではなく、貧困層を経済活動の主流へ導く手伝いが出来るわけです。まずは、小規模融資の更なる普及を目指します。

【有機農業】

正しく食べていない人に薬は効果がありません。岡山県新庄村にある AMDA のモデル農場は有機農業を海外へ発信する場として、一、二年程前からインドネシアやフィリピンから農業の専門家や研修生を受け入れてきました。自国に戻った彼らは、新庄村で得た知識を基に新たな農業を実践しようとしています。農業は、社会発展のための大きな力です。各地域また各国での教育・研究機関と連携することによって、更に安心して効率的な有機農業を確立し、農村を活気づけたいと願っています。

3. 教育支援

【GPSP キッズ・プロジェクト】

子供達の健全な成長には、意欲と能力を形成する十分な機会が必要です。これらの機会を与えられない環境にいる子供達を総称して GPSP Kids と言います。多くの場合、これらの子供達は孤児、障害児、スラム児、被災児、山岳民族児のいずれかです。置かれている環境によって子供たちのニーズは異なりますが、健康診断、栄養補給、スポーツ、異文化体験、異宗教間交流等を組み込んだプログラムをアマダは実践してきました。GPSP は、これを引き継ぎ

これからも子供達のニーズに対応していきたいと思っています。

【グローバル人材育成プログラム】

AMDA は、将来国際社会で活躍することを望む日本の若者たちのために教育プログラムを実施してきました。この AMDA の実績をベースに、GPSP の多様な参加メンバーに加わってもらい、その対象をそれぞれの国々の若者たちへと広げ、包括的でグローバルな人材育成プログラムを形成していきます。次世代のピースメーカー育成のために、GPSP の 4 分野 10 事業をフルに活用し、GPSP 全体でこのプログラムを盛り上げていきます。

【GPSP の奨学金】

GPSP の奨学金には 2 種類あります。いずれも返済の義務はありません。一つは、団体としての一般的な奨学金で資金の使い切りが原則です。もう一つは、募金を銀行に預けることによって生じる利息によって運営され、募金者の方々への感謝と栄誉を讃えて、冠寄付となります。

かつての AMDA の奨学生が現在は寄付者となり自身が以前与えられた機会を次世代の若者に与えています。時空を超えた開かれた相互扶助の素晴らしい一例です。

AMDA・インドネシアの支部長 兼 AMDA International 緊急救援委員会委員長である Dr. フスニ・タンラは、AMDA Group 代表である菅波茂理事長に倣い自身の奨学金を設立しました。AMDA の支部また GPSP 加盟団体が自らの資金提供に基づいた奨学金を設置することを奨励していきたいと思っています。奨学金は僅かな金額から始められますが、資金が十分でないときには、外部とのマッチングも考えられます。GPSP のネットワークは、募金のマッチングや関連情報提供においても役立てるはずで

4. 健康増進

【GPSP 友好病院】

医療が行き届かないコミュニティへの支援は、AMDA の最重要課題の一つです。下記は AMDA 関連の医療機関です。それぞれの設立時の事情は異なりますが、現在は各国の独立した医療機関として AMDA 支部及びその関係者が管理・運営しています。地域住民への医療サービスを提供する他、これらの機関は災害時には医療拠点病院として活動します。GPSP 加盟団体の他の国々においても災害緊急時に医療拠点の役割を担う病院を確保することを期待しています。

- シッドルタ母と子の病院(通称：ネパールこども病院)(ネパール)
- AMDA ダマック病院(ネパール)
- 日本バングラデシュ友好病院 (バングラデシュ)
- 日本アフガン友好病院 (アフガニスタン)
- 日本モンゴル友好病院 (モンゴル)
- AMDA インド ピースクリニック (インド)

【GPSP 医療ミッション (高度医療導入も含む)】

医療を必要とする人々のニーズは様々で、それぞれの特有のニーズに基づいて AMDA は医療ミッションを続けてきました。現地のニーズと医療提供をする側の日程や対応力を考慮して両者を繋げていくことが、AMDA 医療ミッションの基本的な運営方法です。最近のミッションから例をあげますと、2010 年から始まったモンゴルでの眼科医療奉仕団は今日まで続いており、無償の白内障手術、子供の健康診断、メガネの贈呈、モンゴル眼科協会とのセミナー等を実施しています。スリランカにおいても同様、台湾の団体 IHA (International Health Action) との共同事業として無償白内障手術が地域住民のため 2011 年から行われています。また、この他今年スリランカでは行政の協力を得て僻地の小学校で保健教育及び歯科検診などが実施されました。健康増進の分野の中には最先端の心臓外科手術等を含む高度医療の導入があります。

AMDA では、高度医療の恩恵を少しでも深刻な状況にある患者さんたちへ届けたいという一念で支援・交流プログラムを促進しています。GPSP によりネットワークが更に拡張され多くの方々が高度医療を受けられるようになることを目指します。

【プライマリ・ヘルスケア(巡回診療含む)とヘルス・プロモーション】

GPSP は、貧困層への医療サービスと保険教育の推進に努めます。貧困に陥る理由は様々ですが、地域の発展のためには、住民の健康は基本です。同時に保健教育もコミュニティが一体となって成長していくには、無くてはならないものです。AMDA の巡回診療は、世界のあちこちで多くの人たちに健康と健康に関する知識を届けてきました。GPSP は AMDA のこの伝統を継承し、プライマリーヘルスケア及び保健教育を苦境にあえぐコミュニティに普及していきます。

GPSP 構想イメージ図

